

1 学校教育目標		
「未来へかがやけ 蛭っ子！」 ～笑顔いっぱい、生き生きと学び合う児童の育成～		
2 本年度の重点目標	○学び続ける子ども ・意欲的に自主的に学習に取り組む。 ・じっくりと考え、伝え合う。 ・進んで読書をする。	○思いやりのある子ども ・当たり前が当たり前でできる。 ・自他のよさを認め合いながら助け合う。 ・地域に学び、地域を愛する。
		○たくましい子ども ・進んで体を鍛える。 ・規則正しい、健康的な生活を送る。 ・食事のマナーを身につけ、残さず食べる。 ・危機を回避しようとする。

3 総括表					※ 評定は、ABCの三段階で		
① 学び続ける子ども					中間評価(1学期末評価)		
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評定	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
教育活動	○学習習慣の定着	基本的な学習習慣の定着	・話をしている相手を見て、最後まで聞くことができようとする児童90%を目指す。 ・家庭学習も、怠けずに取り組んでいると答える保護者90%を目指す。	・話を聞く習慣づけの徹底指導 ・「読む」「書く」「計算」の宿題を継続的に取り組む。 ・「家庭学習の手引」「市学びの習慣づくり」等の保護者への配布・説明を行い学校・家庭が連携して取り組む。 ・定期的に「蛭っ子カード」(生活点検表)を実施し、親子で学習・生活習慣を見つめ直ししながら、望ましい学習・生活習慣の定着を図る。	B	○「蛭っ子カード」の取組は、ほとんどできている。 △学習習慣づくりについては、継続的な指導で成果があるものの、話を聞ける児童が7割程度である。家庭学習についても7割弱の児童ができていて答えている。	・話の聞き方の良い例を視覚資料(写真等)で提示する。 ・家庭学習についての保護者あてお便り(啓発プリント)を発行する。
	●学力の向上	算数科における思考力及び表現力を育てる指導方法の工夫	・算数科において、児童の思考力・表現力を高めるための授業づくりを通して、活用力を育てる。 ・算数科の標準学力検査において、各学年全国平均以上を目指す。	・思考力・表現力を高めるような授業づくりを行う。 ・児童の興味・関心・意欲や思考を引き出すための教材の研究・開発を行う。 ・児童の実態に応じた少人数指導・TT指導を充実させる。 ・計算タイムや補充学習において級外職員も加わり、全職員で指導に臨む。	A	○1学期までに、2、4、6年生の研究授業及び授業研究会、夏季休業中の校内研修などを通して、学力向上に対する課題を共有することができた。 ○必要に応じて少人数指導を取り入れた。TTの良さを生かしたりして、細やかな個別指導ができている。	・計算タイムの内容を復習を中心に取り組みながら、活用力を高める課題を増やす。
	○読書指導	読書指導の推進	・年間平均100冊の読書を達成する児童を各クラス90%以上を目指す。 ・いろいろなジャンルの本に挑戦できる児童を増やす。 ・毎月「テレビ・ノーゲームデー」を実施し、実施率を90%以上にする。	・100冊達成した児童を星の放送で紹介する。 ・教師や保護者がボランティアによる読み聞かせを実施するとともに、図書館祭りの機会を利用し、読書への意欲を喚起する。 ・「親子読書回覧版」を実施し、家庭でも読書をするきっかけを与える。 ・「ノーテレビ・ノーゲームデー」については、家庭の状況に応じて実践する。保護者にも協力を呼びかけ、家読を勧める。	B	○100冊を達成している児童が昨年度よりも増えている。(62人/134人) ○ボランティアによる読み聞かせを月に1回程度おこなっているが、そのことが児童の読書への意欲喚起につながっている。 ○「親子読書回覧版」が家庭での読書のきっかけづくりとなっている。 ○「ノーテレビ・ノーゲームデー」での家読率も上がっている。	・11月に「図書館祭り」を行うなどして、より一層読書への意欲を喚起する。 ・これまで行ってきた手立てを、今後も継続的にやっていく。
	●ICT活用教育の推進	ICT活用教育指導の推進	・コンピュータや電子黒板、インターネット等を活用して、授業に主体的に取り組む児童を増やす。	・教職員がICTを活用した実践的な教育活動を行うことができるように職員研修の充実を図る。 ・情報化推進リーダーを中心とした校内研修体制を整える。	A	○夏季休業中の職員研修及びICT支援員との協力体制が十分にできている。また、高学年を中心にパソコン室の活用が十分に図られている。	・電子黒板の具体的な活用方法等について、情報交換や情報共有を活発に行っていく。
② 思いやりのある子ども					中間評価(1学期末評価)		
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評定	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
教育活動	○基本的生活習慣の定着	奉仕・協力・勤労などの精神や態度の育成	・礼儀正しい児童を目指す。 (あいさつ・返事・言葉遣い・無言掃除・靴並べ・廊下歩行)	・あいさつや返事を上手にできる子をほめ、常に意識させる。 ・掃除の手順や用具の使い方指導徹底させる。 ・掃除強化月間を設け、全校で重点的に取り組む。	B	○全職員による共通した取組ができているので、掃除や靴並べなどは十分にできている。 △あいさつについては、相手に十分伝わっていかなくなり、したりしなかったりといった傾向があるので、今後も継続した指導が必要である。	・あいさつについては、今後も指導の徹底を継続していく。 ・特に5、6年については、あいさつアンケートで実態を把握し、個に応じた指導を行う必要がある。 ・代表委員会の議題に取り上げ、児童を中心としたあいさつ運動を展開していく。
	○安全対策	危機管理及び安全対策の強化	・自分の身は自分で守るという意識を持つ児童を育てる。 ・登下校のみならず、外出時の防犯ブザーの所持率を100%にする。 ・交通ルールを守り、自転車の正しい乗り方ができるようにする。	・関連機関と連携し、不審者対応避難訓練や交通安全教室を実施する。 ・学級活動・全校朝会等の機会を活用し、自転車の乗り方や身の安全を守る方法を指導する。 ・登校時のPTAや交通指導員の立ち番、下校時の見守り隊との協力体制を維持・継続する。	B	○不審者対応訓練や交通安全教室を通して、自分の身の守り方などを考える児童が増え、大きなけがや事故がなかった。 △登下校の防犯ブザーの所持率は増えたが、遊び行くときの所持率は100%に達していない。	・避難訓練等を通して、「自分の身の守り方」についてさらに指導する。 ・登下校時だけではなく、遊びに行くときも防犯ブザーを所持するよう、全校で呼びかけたり、学級活動で指導したりする。また、学校便りや学級だよりを通して、保護者への啓発を行っていく。
	●小学校低学年の学習環境改善の充実	基本的生活習慣、学習習慣の定着	・あいさつや返事が元気にできる児童90%を目指す。 ・毎日宿題をきちんとできる児童90%を目指す。	・あいさつや返事を上手にできる子をほめ、常に意識させる。 ・決まった量の宿題を出し、宿題はその日のうちに点検し返すようにする。 ・保護者と連携し、協力を得て達成する。	B	○宿題への取組は十分にできている。 △決まった場所や決まった人へのあいさつはできているが、地域の人や来客へのあいさつが十分にできていない。	・時と場に応じたあいさつができるように随時指導をしていく。
	●心の教育	思いやりの心の育成	・集会活動や縦割り班活動を通して、思いやりのある心、自己有用感を高める。	・学年や全校の場で出番をつくり、達成感を持たせる。 ・縦割り班活動の推進によって、高学年のリーダー性と思いやりの心を育む。 ・集会活動や学習発表会を通して、友だちのよさを認め合う。	A	○定例の縦割り班活動以外にも、雨の日の遊びや草取りなどの活動をする中で、高学年のリーダー性を育むことができた。 ○いろいろな集会活動を通して、友達の良いところを認め合うことができた。	・継続して活動に取り組む、さらに思いやりのある心や、自己有用感を高めていく。
	●いじめの問題への対応	多くの目や手をかける学校及び学級経営	・一人一人のよさを認め合い、いじめのないクラスづくりを目指す。 ・学級が孤立しないよう、同一歩調の指導を行い、「学校が楽しい」と答える児童95%を目指す。 ・「予防・早期発見・早期対応、再発防止」を念頭に置き、事案が発生した場合には、組織として迅速かつ丁寧に対応する。	・自分や友だちを大切に、思いやりの心を育む学級活動や道徳の授業を大切にすること。 ・いじめアンケートを定期的に実施するとともに、教育相談週間を設定する。 ・リポートを年2回は実施し、比教学級経営力を高める。 ・職員間において「報告・連絡・相談」を徹底させるとともに、校内いじめ防止対策委員会を開催して、迅速に対応する。また、週に1回行っている「気になる子の情報交換」を充実させ、職員間の共通理解を図る。	B	○第1回(6月)の保護者アンケートでは、「いじめを受けている」が1人、「受けたことはあるが最近はいじめがない」が4人の回答があったため、学校長がすべて保護者に確認をとったこと、いじめを受けている1人は、過去の事例による記述であった。また児童アンケートでは、「嫌なことを言われたりされたことがある」と答えた児童が7人で、いずれも早急に教育相談担当者事情聴取を行ったこと、継続的ではなく、一時的なトラブルによるものだったこと。 ○気になる子や問題行動については、最低週1回は職員会で情報を交換したり共有したりしており、全職員でその対応やケアにあつたこと。 △今このところ継続のないいじめやいじめを受けやすい児童はいないが、一時的とはいえない思いをしている児童がいるということを受け止め、友だちを大切に、さらに思いやりの子でも育てるための手立てを講じていく必要がある。	・「人権の花」の活動などをとおして、さらに「人権尊重」の精神を養う。 ・いじめを早急に発見するために、教育相談週間や学校独自の心のアンケートの取組を、さらに充実させる。
○特別支援教育	支援体制の確立	・特別支援教育に関する専門性を高めるために年に3回の校内研修を行う。 ・支援を必要としている子を把握し、個に応じた支援を行う。	・関係機関と連携し、専門の講師を招聘して職員研修を行う。 ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めるため適切な指導及び必要な支援を行う。 ・個別の支援計画を作成し、個に応じた指導を行う。	B	○市の教育の日の講演会で、特別支援教育に関する話を全職員聞くことができた。 ○巡回相談を利用し、支援を要する児童について共通理解をし、全職員で支援を行うことができた。 △他に支援を要する児童がいなくて、絶えず目を配っていく必要がある。	・支援を要する児童の把握と全職員の共通理解を今後も継続していく。 ・個別の支援計画の見直しや加筆を行う。	

③ たくましい子ども					中間評価(1学期末評価)		
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評価	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
教育活動	●健康・体づくりの推進	・心身ともに健康な児童の育成	・体育科の授業の充実を図り、運動が好きな子どもを育てる。(県教委の「体力向上推進事業への参加」) ・遊び場の環境を工夫し、外遊びを奨励する。	・体育の授業づくりについて意見交換をする場を設ける。 ・スポーツレクリエーションや体育委員会の掲示板などを使って外遊びを紹介し、その遊びの楽しさを伝え、外で体を動かして遊ぶようにする。 ・一輪車週間やなわとび週間を設け、達成感や遊びの楽しさを体感させる。	A	○スポーツレクリエーションを体育委員会で企画し、全員参加で取り組むことにより、体を動かす機会が増えてきた。 ○どのクラスも「みんなで遊ぶ日」などを設け、外遊びが定着してきている。	・マラソントイムやなわとび週間を設定し、さらに健康で運動が好きな児童の育成を図る。
	○望ましい生活習慣の形成	・健康的な生活習慣の定着	・「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣化できている児童を90%を目指す。 ・年間を通して、立腰・手洗い・うがい・歯みがき・帽子着用を実践し、自分で健康管理ができる。	・手洗い・うがい・歯みがきを習慣化し、感染症予防に努める。また、歯科校医・保健センターと連携し、歯科保健指導をすすめる。 ・メディアの影響について知らせ、時間を決めて利用できるようにする。	B	○衛生検査及び朝ごはん調査の回数を増やしたことにより、少しずつではあるが忘れてできなかったりする児童の数が減ってきている。 ○歯科校医、保健センターと連携し、継続した指導ができていく。 △メディアの影響についての指導や取組ができていない。	・児童保健委員会活動のひとつとして、校内放送やお便りの発行などの広報活動を行い、さらに意識化を図っていく。 ・養護教諭による園庭き指導を11月に行う。 ・ノーテレビノーゲームデーに合わせて、メディアの影響等についての指導を保健便りに掲載する。
	○望ましい食習慣と食の自己管理能力の形成	・食事のマナーを守り、好き嫌いをなく食べる児童の育成	・食に関する知識と関心を持たせ、好き嫌いをなく食べる児童を90%以上にする。 ・食器の持ち方や姿勢に気をつけるなど、マナー面での指導を徹底させる。	・食育の授業や給食たより、給食委員会の発表などを通して、食の大切さを知らせる。 ・5月・10月は、担任が実態を把握し、正しいマナーを身につけさせる。	A	○学校栄養士の給食指導を通して、好き嫌いをなくすことができた。 ○食器や箸の正しい持ち方の指導を通して、その作法を身に付け、楽しく給食を食べることができた。	・11月に今年度2回目の「給食マナー週間」を設定し、正しい給食マナーについて更に理解を深めていく。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目					中間評価(1学期末評価)		
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	中間評価	成果(○)及び課題(△)	今後の方策
学校運営	○魅力ある学校づくり	地域・保護者と連携した児童の育成	・地域人材を活用した体験的な学習活動を行い、豊かな心を育成する。 ・地域関係団体、保護者等と連携して、基本的な生活習慣の徹底を行う。	・各学年に地域人材を生かした学習活動を教育課程に位置づけて実施する。 ・地域関係団体との協議の場を設け、学校の教育活動について理解を求め、支援を要請する。 ・地域・保護者との連携で、あいさつ等の基本的な生活習慣の徹底を図る。	A	○年度当初から大草野地域コミュニティとの協議の場を設け、窓口を指導教諭に一本化したので、確実にまた計画的に進めることができていく。 ○行事等の企画運営の際は、学校、保護者、コミュニティそれぞれが無理のないような範囲でということの基本に行っており、順調である。	・今後の活動も多忙感につながらないように、打ち合わせを綿密に行いながら進めていく。 ・協議を行う際は、単に行事のみだけでなく、健全な子どもの育成ということを念頭に、あいさつ等の徹底等についての熟議を行うようにしたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目